

【特別書面インタビュー】大槌ゆかりの方に伺う『今後の10年へ向けてコロナ禍を乗り越えるために』



イラストレーター
兎塚エイジさん

イラストを描く事で 大槌町のPRへ

< 兎塚エイジさん 略歴 >

大阪在住。フリーランスのイラストレーター。ライトノベルを初め、ソーシャルゲーム等のイラストを手掛ける。また「おおつちバラエティショー」に関連したキャラクターイラストを担当。三陸♥おおつちPR大使。

※お顔は原則として
非公表のためイラスト

国内で新型コロナウイルスの感染が広がりはじめて1年が過ぎます。この1年はどんな日々でしたか？

フリーのイラストレーターという職業柄、自宅が職場ということもあり、仕事においてコロナ前と大きく変わらざる過しています。実際に足を運ぶイベント等は減りましたが、その分、オンラインイベントに取って代わったため、プラスマイナスゼロといったところでしょうか。

また、僕はあまり実感がなかったのですが、巣ごもり需要のため、電子書籍の売り上げが伸びたと知り合いの漫画家さんが言っていましたので書籍業界的にはマイナスは少ない印象でした。

こうしたときに大事にしていること、大事だと思っていることは何ですか？

仕事や収入面で申しますと、前述のとおり、イラストレーターや漫画家等在宅ワークの職業なので、これといった影響は無くいつも通りやっています。

ただ、イラスト漫画の分野でも人が集まるイベントではオンラインに切り替えたり、人数制限するなどしてやりくりしていますので臨機応変かつスピーディーな切り替えができる運営が重要だと感じました。

コロナ禍でのエンターテインメント、観光、文化芸術のあり方とは？

コロナ禍に限らず、趣味やエンターテインメントは心に余裕が無いと楽しめませんが、ある程度のストレスや疲れであれば解消し活力に繋がられるかと思えます。

なかなか出かけにくい時世で生活スタイルが大きく変わった方も多いかと思えますので、普段手に取らなかつた本や映画などに触れてみるいい機会かもしれません。

大槌町との思い出や関係のきっかけを教えてください。

大槌町役場の大槌町産業振興課の方が僕のイラストやそれに関わる作品をご存じだったようで、そこからおおつちバラエティショーなどに関連したイラストをご依頼頂いて...というのがきっかけです。

大槌のお祭りに際して訪問し、御神輿等を載せた漁船が湾内を次々と巡っていくという漁師町ならではの行事を拝見しまして、規模も大きく印象に残っています。

大槌町ではふるさと納税や、通信販売サイト「大槌孫八郎商店」で、町特産品のPRに努めていますが、大槌の特産品と言えば？

以前に描かせて頂きましたイラストでも出てきたのですが「新巻鮭」の印象があります。大槌町が発祥とのこと自分もそうでしたが、知らない方は多いのではないのでしょうか。

また「鼻曲がり」という鼻先がかぎ爪の様に曲がった種類も特色のようにイラストに描く際に特徴がとらえやすくイラストレーターの印象に残りました。

昨今はコロナの影響で鮭のつかみ取りができる「鮭まつり」も中止のことで残念ですが、そういう体験イベントが開催できる特産品というのも貴重だと思います。

今後、三陸♥おおつちPR大使として大槌町で、あるいは大槌町民と一緒に挑戦してみたいことは？

自分は器用な方ではありませんので、なるべく幅を広げず、あくまでイラストを描く事を通じてPRできればと考えています。PRするための企画を頂き、それを見栄えのするようにイラストで表現する、それによって、人が集まり、町に利益が出れば、イラストレーターPR大使冥利に尽きます。

本年の活動予定を教えてください。

これまでと変わらず、ライトノベルやソーシャルゲームのイラストを中心に活動していく予定です。また、ドリームコミッションという個人の方から依頼を頂いてアナログのイラストを提供するというイベントにもたまに参加しています。

大槌町民へメッセージをお願いします。

今回のコロナ禍では大なり小なりお祭りや人の集まる行事は見送られたと聞いております。そういったイベントは町を活性化させる重要な役割があるかと思えます。現在はまだ、県をまたいでの人の移動がはばかれる状況ですが、いずれこの状況乗り越え、例年通り行事が開催され、人の集まる日常に戻ることをお祈り申し上げます。

(令和3年6月22日書面にてインタビュー)
企画・編集 大槌町産業振興課商工観光班
編集協力 (一社) 大槌町観光交流協会